



デンマークの 食と暮らし研究会

NEWS LETTER APR 2021

発行：NPO法人デンマークの食と暮らし研究所 〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-7-1 有楽町電気ビル南館12F
Tel 03-3213-4801 Fax 03-3213-5406 ホームページ : <http://www.danishforum.jp/> メール: info@danishforum.jp

廃棄物エネルギープラントの上のスキー場



エネルギープラントとスキー場の外観

コペンハーゲン市が新しいエネルギープラントの建設を決定した時、それが世界で最も近代的でサステナブルな廃棄物エネルギーの施設であるだけでは不十分だと判断しました。この施設は住宅地に近い工業地跡に計画された為、人々にやや驚く方法で面白さと楽しさを与えるように設計されたのです。

2019年にオープンしたこのエネルギープラントは、デンマークの若き建築家であり富士山のおもとにあるトヨタの未来都市の計画にも携わっているビャルケ・インゲルスによってデザインされました。形は41,000㎡のダブルウェッジで、屋上には人工スキー場、緑豊かな自然公園、ハイキングコース、世界一高い人工クライミングウォールがあります。一年中スキーができるように設計されたこのスキー場は雪ではなく、本物の雪とほぼ同じような体験ができる緑のブラシのような素材で覆われています。それは初心者だけでなく、上級者たちにもいっそう挑戦させる意図があります。頂上はブラック/レッドの滑走コースが示されており、スラロームとフリースタイルのエリア、適切なリフトとキッズエリアがあり、誰もが楽しむ事ができます。もしあなたが激しいスポーツが好きでなくても、頂上までハイキングをして食事を楽しむ事もできます。建物の表面下には、年間44万tの廃棄物をクリーンエネルギーに変える最新式の炉とタービンがあり、10万軒の家に電力と地域暖房を供給するのに十分です。実際非常に効率的ではありますが、コペンハーゲンではそれほど廃棄物が出ておらず、話題になっています。それでも多くのデンマーク人はこの型破りな新しいランドマークに満足しています。この施設は街はずれの地域一帯を活気づけ、同時に友好的で人道的な方法でなんとかグリーンランジション（環境配慮や持続可能性のある社会への移行）を行うというデンマーク人の意気込みのあらわれでもあります。(J.Ring)

デンマークの自転車文化

デンマークでは人より豚の方が多く聞いた事があるかもしれませんが、コペンハーゲン市内では人より自転車が多いことをご存知でしょうか。実際に自転車はデンマーク人の生活に必要不可欠で、少なくとも一人一台は自転車を持っています。彼らは自転車を愛している、と言いますが、それは自転車に乗っている時に感じる自由や自主性が好き、というのが正解かもしれません。

デンマークの都市部では自転車通勤が一般的です。一部の人、特に中高年の男性は、とても高価で速度の出る競技用自転車にお金を費やしますが、ほとんどのデンマーク人は様々な天候に耐えられる頑丈な自転車を求めます。

自転車の平均速度が比較的速いので、デンマークを訪れた際は通りの右側を走る自転車に気をつけなければいけません。都市の主要道路には進行方向それぞれに2m幅の自転車用レーンがあるので問題はありません。(先を急いでいると思われる本格的なサイクリングウェアの中年男性が、ゆっくり走る自転車を安全に追い越すのに十分な幅です。)ご存知の通り、競技用自転車はデリケートです。ゆっくり走る自転車は、何分か前に自分を追い抜いていった競技用自転車が脇でパンク修理をしているのを見て、悪意無く笑いながら通り過ぎます。雨の日はますます面白さが増します。コペンハーゲン市内の子供がいる家庭の間では、変わった形をした自転車に乗るのが一般的で、それは車輪が3つ(後ろに1つ、前に大きなかごを挟んで2つ)付いた、“カーゴバイク”です。コペンハーゲンの子供のいる家庭の1/4以上が“カーゴバイク”を所有していて、幼稚園や学校の送り迎えや買い物の荷物を運ぶのに利用しています。子供たちがペダルなし自転車に乗り始めるのは2~3歳で、バランスが取れるようになると一般的な自転車に乗ります。11~13歳の児童の約半数は、どんなに暑くても、雨や大雪の日でも自転車ですべて毎日通学しています。

現在、世界中で環境対策を競い合い、政治家たちはデンマークの持続性のある自転車文化を賞賛します。デンマークで自転車の利用が広まったのは1880年代まで遡り、偶然にも農業従事者が酪農や食肉処理場の組合を作り始めた時期と重なります。1950年代の高度成長期は、車やオートバイに乗るのが普通でした。しかしデンマーク人は、シンプルで健康的な生活を送るために自転車を利用する生活を続けました。理由はそれだけではなく、車やガソリンに対する高い税金がこのような生活をし続ける後押しとなっています。

農業従事者が趣味以外で馬に乗らなくなった一方、今でもデンマーク人は生産性に持続性や健やかさを求めます。加えて、とてもシンプルな交通手段である自転車のことを、親しみをこめて“鉄の馬”と言い表します。(J.Ring)



フェーマルンベルトトンネル2021年1月着工 デンマークとドイツを結ぶ世界最長の沈埋式トンネル

デンマークのロラン島レズビュハウンとドイツのフェーマルン島プットガルデンを結ぶ、全長17.6kmの4車線の高速道路と複線の鉄道からなる沈埋トンネルの建設が2021年1月着工し、2029年完成予定です。この計画は1992年デンマーク・ドイツ両国政府がフェーマルン海峡連絡路の基礎的調査への取り組みに合意して以降、長年の調査を経て架橋案・トンネル案を検討した結果、航空障害・鳥類の飛行などの環境への影響や潮の流れの阻害が少なく、資機材の殆どをヨーロッパ域内で調達可能である等の要素から2012年末デンマーク・ドイツ両国政府間でトンネル案に正式合意しました。

今回採用された沈埋トンネルとは、予め海底に溝を掘り、そこにケーソン(沈埋函)を沈めて土をかぶせる方法で建設されるトンネルです。開削トンネルやシールドトンネル



ケーソン(沈埋函)

に比べ、浅い位置にトンネルを造ることができ、その分トンネルの勾配が少なくなるため、建設費が高額になるトンネル部分の長さを短くできるメリットがあるとされる方法です。現在、同海峡間の移動がフェリーで1時間かかるところ、トンネルを利用すると鉄道、車ともに約7分10秒で通過できる予定ということです。加えてコペンハーゲンーハンブルク間の移動でユトランド半島を経由する鉄道在来ルートに比べ160km短縮し、移動所要時間も4時間30分から2時間へと大幅な時間短縮となります。陸路での移動がますます便利になりますね。



コペンハーゲンーハンブルク 鉄道路線図

賞味期限切れ食品専門スーパーマーケット



近年、日本でも賞味期限切れ食品を扱う店が徐々に増えてきましたが、その草分け的存在になったのがデンマークにある賞味期限切れ食品スーパー「We food」です。このスーパーマーケットで販売している食品は、提携を結んだスーパーマーケットから賞味期限が切れている・包装に傷があるなどの理由で売ることが出来なくなったものを譲り受けたものです。賞味期限切れの食品とはいえデンマーク食品法において安全な基準を満たしているもののみが売られており、定価の30~50%引きで販売しています。We foodは、世界の食糧生産量の3分の1が食品ロスとして捨てられることを改善し、8億人が飢餓と貧困に苦しむ現状を変えることを目的として2016年2月アマー島のコペンハーゲン空港そばで第1号店がオープンしました。開業資金は世界の貧困者支援を目的としたデンマークのNGOと緊急支援団体がクラウドファンディングで集め、働いているスタッフは全員ボランティアであり、利益は全て発展途上国での活動に充てられています。



We food店内

☆保冷エコバッグプレゼント☆

ご好評につき、保冷機能素材を使用したエコバッグを抽選で10名様にプレゼントいたします。

♪プレゼント応募あて先♪

ご希望の方は、貴社名、氏名、住所、電話番号をご記入の上、下記メールアドレスまでご応募下さい。

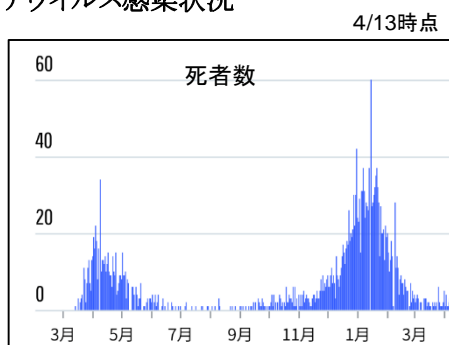
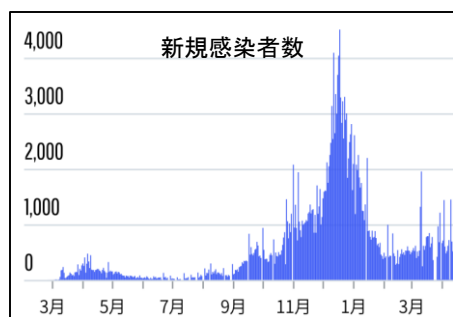
メールアドレス:info@danishforum.jp

件名は「保冷エコバッグプレゼント応募」と入力して下さい。

2021年5月14日締め切り。

当選発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。たくさんのご応募をお待ちしております。

デンマークの新型コロナウイルス感染状況



出典 AFP

編集後記

前号に続き今号もJens Ringさんに寄稿していただきました。どちらの記事もデンマークらしい興味深い話でした。実際のカーゴバイクの写真(下)を見てみると、荷台がとても大きくて便利そうで、利用してみたいと思いました。(E.Y/A.F)



デンニッシュマークは、良質なデンマーク産豚肉を使用した製品やメニューに表示されています。

